



第11回 同窓会総会 =新事業承認される=

平成二十年度第十一回教育学部同窓会役員総会が、八月九日(日)、教育学部会議室で開かれた。

当日は、長崎原爆投下の日に当たると、冒頭に全員で黙とうして開会した。

初めの会長あいさつで、池之迫静男会長は「本日は長崎原爆の日です。われわれ同窓会も、活動の究極の願いは、世界の平和と人類の幸せであります。松元前会長を引き継ぎ、ここまで来られました。あればこそでした。いま、設立十年目の節目に差し掛かりましたので、いくつかの新規事業と記念の大会を

考えています」と語りつた。

次に、顧問の島田俊秀、坂尾隆元、元学部長、中山右尚前学部長のあいさつがあり、これらで同窓会にどのようなにかかわってきたか、同窓会の今後へのことを期待するかが述べられた。

また、この教育学部同窓会設立に尽力された松元兼俊名誉会長のあいさつで、「ここまで、みんなの努力で同窓会の基盤が固まってきたが、同窓会は堅苦しくないものでもありたい」とも考えて運営して欲しいと要望された。

続いて石神正明副会長が十九年度の会務報告を行ない、中でも「鹿児島の教育を語る会」を前年度の会報で詳細にお知らせした通り、四人の学生と二人の学校現場の教員が教育学部教育実践センターの下野浩二教授をコーディネーターとして「教職への道」をテーマに自身の充実したフォーラムを行い、出会者に強い感銘を与えたことを報告した。

今年度は十一月二十八日(金)に開催を予定していますので、会員が一人でも多く出席して下さることを願っています。

協議では、福島嘉久理事を議長に選任して議事に入りました。

議事は、十九年度決算、二十年度事業計画、二十年度予算、組織の充実策、役員選任が提案された。

新規事業として、本同窓会活動の主たる目標である、在学を支援することの「成」のために、「鹿児島大学

国際交流基金」を同窓会が用意することが提案された。

また、これも会則二条に掲げる同窓会の目標である教育の振興にささやかでも資するため、地域に在住する同窓生の教育力を生かし、地域の児童生徒の指導やPTA活動、公民館活動等へ講師派遣などをして支援する「人材活用事業」が提案された。

これは、理事会でも総会でも、十分審議の上で承認された。

そして、節目の年の特別の事業として「設立十周年記念大会」が提案された。

これは記念すべき節目の年に当たり、これまでの活動を振り返り、今後の活動と組織の充実を図るとともに、会員相互の親睦と母校の発展、地域の教育振興を願う良き機会となることを念じて実施するものである。



鹿児島大学教育学部
同窓会
第10号
平成20年11月5日
発行
鹿児島大学教育学部
同窓会
〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話099-285-7711

平成20年度予算

1. 収入の部	
区分	予算額
前年度繰越	1,168,563
会費	3,910,000
合計	4,078,563
2. 支出の部	
区分	予算額
事務経費	410,000
会議費	740,000
事業費	1,010,000
会計区分変更	500,000
予備費	1,418,563
合計	4,078,563
3. 特別会計	
(1) 記念事業積立金 (収入の部)	
区分	予算額
前年度繰越	11,000,000
合計	11,000,000
(2) 総会開催準備基金 (収入の部)	
区分	予算額
前年度繰越	4,000,000
合計	4,000,000
(3) 国際交流基金(予) (収入の部)	
区分	予算額
新規積立	500,000
合計	500,000

平成19年度決算 (単位:円)

1. 収入の部			
区分	予算額	決算額	増減額
前年度繰越	14,210,490	14,210,490	0
会費	3,990,000	2,500,000	△1,490,000
雑収入		22,401	22,401
合計	18,200,490	16,732,891	△1,467,599
2. 支出の部			
区分	予算額	決算額	増減額
事務経費	260,000	328,887	△68,887
会議費	250,000	432,740	△182,740
事業費	1,010,000	802,701	207,299
総会開催準備基金	4,000,000	0	4,000,000
記念事業積立金	11,000,000	0	11,000,000
予備費	2,180,490	0	2,180,490
会計区分変更		15,000,000	△15,000,000
計	18,700,490	16,564,328	2,136,162
次年度繰越		168,563	
【特別会計】			
1. 総会開催準備基金	一般会計から組み替え4,000,000円	支出額0円	次年度繰越額4,000,000円
2. 記念事業積立金	一般会計から組み替え11,000,000円	支出額0円	次年度繰越額11,000,000円

◆平成20年度事業計画

四月二日 十時 同窓会理事会
 新入生学部企画オリエンテーション 十三時 同窓会総会
 ショーン 十一月 同窓会総会
 四月七日 十一月十五日 大学祭学部企画事業への参画
 鹿児島大学同窓会連合会総会 十一月十五日 同窓会報第十号発行
 七月十九日 同窓会十周年記念大会
 同窓会役員会 十一月二十八日 平成二十一年度新入生への案内

同窓会主催「鹿児島島の教育を語る会」
 十二月 同窓会報第十号を、各同窓会員に発送
 二月 昭和三十八年、四十五年卒業生への案内
 三月 平成二十一年度新入生への案内

ご挨拶



教育学部長 河原尚武

本同窓会が誕生して十年目の秋を迎えました。母校の現状に関心をもち、その発展を支援する積極的な役割を果たす同窓会を創造したいとの願いに立って、この間、松元兼俊前会長および池之迫静男現会長を先頭に役員・会員の皆さまの献身的な努力が積み重ねられてきました。

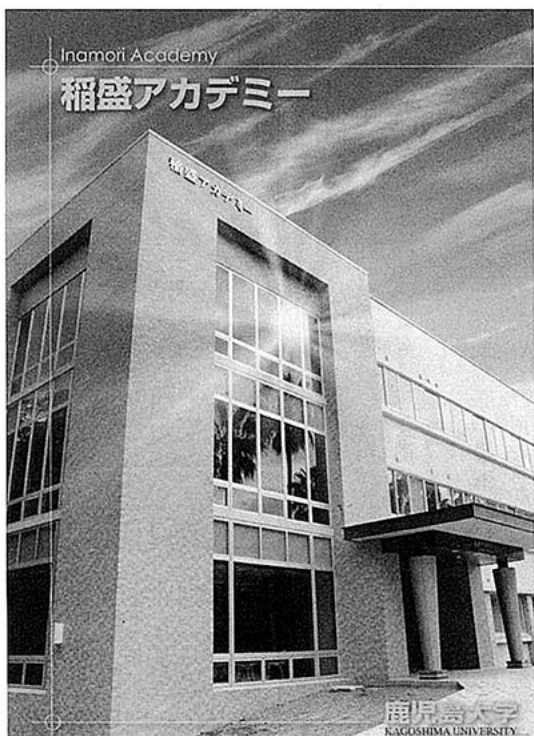
こうした方針の下で始まった「鹿児島の教育を語る会」は、幸いにも先輩・卒業生との交流を深め、学生の就職への意欲を向上させるために今やなくてはならない企画として定着してきました。

また、国際交流活動へのご

去る九月一日、鹿児島大学キャンパスで、「稲盛アカデミー」棟開所式が行われた。この棟は、

稲盛アカデミー棟開所

「人間力の総合的育成を目指して」



この「稲盛アカデミー」は新しく生ま

は新しく生ま

去る九月一日、鹿児島大学キャンパスで、「稲盛アカデミー」棟開所式が行われた。この棟は、

本学の卒業生で京セラ(株)名誉会長稲盛和夫氏の寄付金で運用される。開所式には、稲盛和夫名誉会長をはじめ鹿児島大学吉田浩己学長、伊藤祐一郎鹿児島県知事、森博幸鹿児島市長、諏訪秀治鹿児島商工

会議所会頭、各学部長、同窓部同窓会長らが出席した。平成十七年四月に設置された稲盛経営技術アカデミーは、本年四月に稲盛アカデミーに改組された。これまでの「京セラ経営講座」から「稲盛経営技術アカデミー」と

た文部科学省特別教育研究経費による事業「県教育委員会と連携した新しい教員養成カリキュラムの開発・実施」、同じ経費による事業で、四年目を迎えた長崎、琉球両大学教育学部との連携による離島・へき地教育の研究、やはり昨年、本学が申請して選定された文部科学省専門職大学院等教育推進プログラム「生きる教師力を育む特別支援学校教員養成」(助教員研修センター委嘱による教員研修プログラム)の開発等々、多彩な課題を並行して進めてきました。

教員養成カリキュラム開発事業の一環として、鹿児島市内小中学校における一年生全員を対象とした「学校体験」を昨年度より授業の一環として取り入れられました。今年度は小中学校八十校に二百八十七人の学生を受け入れていただき、五十人の学部教員が付き添い指導に当たる

形で実施いたしました。このほかにも、奄美大島における学校環境観察実習(一年生六十人)など、従来からの科目や新たに二年次から大学院にかけて開設した科目等を実践的な教職科目群として位置づけ直し、学部・大学院における教員養成の機能をさらに高度化・現代化しようと考えております。

今年度の夏には、大学院研究科の改組という宿題も文部科学省の認可を受けることができました。それぞれの取り組みには、質・内容的に解決すべき課題も数多く残されていますが、関係方面の理解を得ながら、学部を挙げて努力してまいります。

来年は、いよいよ学部創立六十周年(二〇〇九年)です。同窓生の皆さまにおかれましては、どうか引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成十九年三月、前任地で上司に呼ばれ、新しい任地を告げられた。まったく予想もしない任地に一瞬、声を失った。母校鹿児島大学教育学部にわたしを含め、四名の現職教員が初めに赴任することになった。

新たな教員養成への挑戦

教育実践総合センター教授 下野浩二



「教員を対象とした研修講座のコーディネート」について簡単に紹介したい。一年必修科目「教職基礎研究」は今年二年目を迎えている。手探り状態であった昨年度の課題を解決し、改善を加えながら取り組んでいるところである。



模擬授業の様子

鹿児島市内八十の小中学校の御協力の下、学部内の六割近い先生方のご支援をいただきながら、三日間の学校体験を実施している。まさに教職への動機付け、課題の生み出しとしての役目を果たしつつある。

この科目を体験した二年生に準備した「教職実践研究Ⅰ」および「教職実践研究Ⅱ」については本年度からの取り組みである。教育実習を一年後に控えた学生に自分で指導案を書き、模擬授業を体験

平成十九年三月、前任地で上司に呼ばれ、新しい任地を告げられた。まったく予想もしない任地に一瞬、声を失った。母校鹿児島大学教育学部にわたしを含め、四名の現職教員が初めに赴任することになった。

この年二月に教育学部と県教育委員会とが連携し、新しい教員養成の開発・実施を目的として人事交流に関する覚書が締結されている。この人事交流の期間は原則三年で、招聘された教員は専任教員として教育学部附属教育実践総合センターに所属している。

二つめの教員を対象とした研修講座のコーディネートについては、本年度から「教育実践セミナー」を年八回実施する予定にしている。そのうち二回はオープンセミナーとして県内すべての小中学校に文書で案内を出して実施している。この八月には、県内から約百名の参加者を得、小学校理科シンポジウム、中学校ICT活用セミナー、小中学校三教科での現場教員による模擬授業および授業研究会、講演会等盛りだくさんの内容の研修会を終日行ったところである。

【実践的教職科目群の構想】

学年	コンセプト	科目名
1年	ふれあう	教職基礎研究 (学校現場の観察) - 必修 -
2年	関わる	教職実践研究Ⅰ (学習指導中心) - 選択 - 教職実践研究Ⅱ (学級経営生徒指導) - 選択 - 参加観察実習(5日間)
3年	試してみる	(事前指導) 教育実地研究Ⅰ (事後指導)
4年	振り返る	教育実地研修Ⅱ 教職応用研究 (教師としての自己課題探求)
大学院	広げる	教職特論 (リーダー養成)

「教職実践研究Ⅰ」および「教職実践研究Ⅱ」については本年度からの取り組みである。教育実習を一年後に控えた学生に自分で指導案を書き、模擬授業を体験

させたり、学級経営案を作成させたりすることを目的として実施している。受講した学生には好評であるが、必修科目ではないために、受講生の確保が課題となっている。また、教師として最小限必要な資質能力を身に付けたかを確認・補充する四年必修科目「教職応用研究」の実施に向けて、現在検討を進めているところである。

「教壇に溢れる平成の風」

本年二月文部科学省は、小中学校の学習指導要領の改定案を発表した。現行に引き続き「生きる力の育成」を掲げ、四十年ぶりに総授業時間と学習内容を増やす。現在、学校現場の先生は、どのような課題を抱えているのでしょうか。平成になってから教壇に立たれた若い先生方に、今、それぞれ児童生徒たちとどのような取り組みをされ、また地域社会との触れ合いなどについて、充実した教壇生活の一端を伝えてもらおう。

「親身になってくださる先生方」

垂水市立協和小教諭

黒岩真紀子(H16卒)



今から四年前の平成十六年四月、大学を卒業したてのわたしは武岡台養護学校へ赴任しました。

初めての現場で覚えることが多く、自分が今何をしているのかもわからず、周囲のスピードにもついて行けず涙をこらえながら過ごした日々を思い出します。

それから四年が経ち、今は小学校に勤めています。環境は大きく変わりましたが、学校が変わっても変わらないものがあります。それは、必ずわたしの近くには親身になって話を聞いてくださる先生方がいるということです。経験がないのは事実で、だからこそ先輩に素直に「ここはどうするのですか」と尋ね、行動することが大切なのだと思惑しています。

また、子どもたちについても養護学校・小学校と共通するものがあります。みんなで大笑いする日、涙する日、落ち込む日、喜びでいっぱいの日

日：毎日が違います。

けれども、どんな時も正面から誠実に向き合っていくところが鍵なのかと思えます。一つ一つ答えを見つけてながら歩いている。そう感じながら今日も子どもたちと過ごしています。

「子どもたちが日々見せてくれる笑顔に」

出水市立東出水小教諭

遠矢博貴(H11卒)



教師になって九年目。県立大島養護学校、鹿児島大学教育学部附属特別支援学校を経て、今年から小特交流で出水市立東出水小学校に勤務している。

これまでの教師生活を振り返ると、子どもたちや保護者、地域の方、同僚など周りの方々から多くのことを学び、たくさんの感動をもらったように思う。

これまで何度となく悩みや苦しみが訪れたが、子どもたちが日々見せてくれる笑顔は、それを一瞬に吹き飛ばしてくれる。新しいことにチャレンジするときの目の輝き、さまざまなことにトライしているときのひたむきは、自

分が忘れかけている熱い気持ちを奮い立たせてくれる。

また、保護者や同僚からのアドバイスに何度助けてもらったことだろう。自分一人では解決できない困難も周りの方々のサポートで乗り越えることができた。

子どもたちや学校をさまざまな形で支えてくださる地域の方々にも感謝の気持ちでいっぱいである。多くの仲間にも困らせて教師生活を送っている自分は幸せである。これまでの感謝の気持ちを胸に、人の気持を受け止めることができる広い心、教師として技量、子どもたちの元気に負けない体を養い、自分に自信の持てる人間になれるように精進していきたい。

「教師として「自問自答」を中種子町立中種子中教諭

藤島伸一郎(H11卒)



教員生活も九年目に入りました。今現在思うことは、教師は生徒に日ごろ話していることを振り返り、「自分はそれができるのか自問自答すべき」ということ。言うことはとても簡単。例えば、私

ちは生徒に「勉強しよう」「何事にもチャレンジしよう」と言います。

しかし、自分自身それができているのか？研究公開授業や部活など、大変なことを避け続けることも多いのでは？自分で言うのなら、自分も実行すべきであるし、そうした姿勢は生徒に伝わります。

わたし自身、そんなに話す力はなく、生徒を言葉で引っ張っていったりする力がそんなにあるとは思いませんが、校種間交流にチャレンジしたり、校務分掌も大変なものを引き受けたり、部活もやったことのないものにチャレンジしたりと「先生も頑張っている」という姿勢を見せることはできていたと思います。

こうした姿勢が良かったのか、今までの生徒たちと、とてもいい思い出を作ることができました。生徒の前で話をするのはいまだに緊張しますが、まだまだ未熟な教師ですが、何事にも挑戦し、努力する姿勢を忘れずに、そして生徒とともに苦しみながら、よき思い出を作り続ける自分でありたいと思っています。

「校区総出で 行う踊りの中で」

蒲生町立添小教諭

新名主幸二(H13卒)



早いもので、大学を卒業してから十年余り経とうとして

いる。

「学生」から「先生」へ、自ら選んだ道とはいえ、当時のわたしにとって、毎日が言いようのない焦燥感と、適応のための苦悩の日々が続いた。

初任者のころは、頭の中は結局今の自分がすべて。学校の中で仕事をしさえすればいいと思っていた。

転勤して現在の学校に来たとき、小規模校の仕事の多さに驚き、今までの生活を反省

「教え子との再会が 教えてくれたもの」

日置市立伊集院中教諭

近藤陽介(H6卒)



「お久しぶりです。」先日、町中でスーツ姿の若い男性に声を掛けられた。一瞬の戸惑い。しかし、すぐに中学生のころの彼の顔と名前が頭に浮かんだ。

教職について間もないころ、中学生の彼との出会いがあった。当時の彼の口癖は「おもしろくない・つまらない」だった。決して欠席が多いわけでもなく、部活動にもまじめに取り組んでいた。友達も少なからずいたのだが、毎日のようにその言葉を口にして

いた。機会を見つけては、声を掛けたり、話を聞いたりしてわたしなりにその原因をつかもうとしていたが、彼の話は漠然としていて結局、何の手助けもできなかった。

数年ぶりの再会。彼は自分のやりたいことが見つかり、

するきっかけになった。加えて驚いたことには、同僚の先生方が進んで地域行事に入り、地域の方々もそれを温かく見守ってくださっていたことである。

漆地区には、「バラ踊り」という伝統芸能がある。校区総出で行う踊りであるが、衣装をすべて装着すると息もできないほどのきつさである。わたしは用意された一番大きなバラ(太鼓)を持ち、踊りきった。

大変だけど毎日が楽しいと笑顔で話してくれた。そして、こんなことを言った。「中学のころ、よく話を聞いてもらってうれしかったです」と。この仕事は形が見えないことが多いといわれる。しかし、このような形で教え子の成長と過去の自分と生徒とのかかわりに触れることもできる。これからの自分の在り方も考えさせられる再会であった。

思い出は作文とともに

鹿児島市立武中教諭

福島三鈴(H2卒)



大学卒業後、奄美大島の小さな中学校に国語教師として赴任した。初めて担任したのは二年生三名。

その中には作文が苦手なマサカズもいた。しかし、豊かな自然に囲まれて育った彼の純粋な気持ちやなんとか表現させたくて、わたしはひたすら作文や詩を書かせた。それから十数年が経った。二度目の離島勤務も終え、い

慰労会での席上、地域の方から「先生は踊りきったなあ。来年もお願いしよんで。きばいやんお」と声を掛けられた。何気ない一言であったが、ようやくそれで認められたような気がした。そして気付いた。「先生」が敬愛の念をこめられるのは「先生」という職だからではなく、人のためにものごとをすることが出来る人が「先生」であるからである。

よいよ奄美を去る時、段ボール箱を整理していたら、当時の生徒たちの作文の束が出てきた。

これは捨てられない。とにかく本人たちに返さなくては。今を逃したらもう返す機会はないだろう。そう思って作文を手に送別会へ向かった。

駆け付けてくれた二十六歳のマサカズに作文を渡すと、彼は照れ臭そうにそれを読み、そしてどういうわけか、作文をわたしの手に戻した。

「先生、こんな下手な作文、大事にとっておいてくれてありがとう。でも、オレきつとなくしちゃうからさ、先生が持つててください。」

思わず涙が出そうになった。わたしは二度と会うことはないまいと思っただけで作文を返そうとしていたというのに……

思い出をわたしに預け、再会を約束してくれる教え子の言葉は教師冥利に尽きた。やがて教師生活二十年を迎える。三十四歳のマサカズたちと共に作文を読み返す日がまた来るかなと、今からちよつと楽しみにしている。

二十年度の新しい事業

同窓会設立十周年に当たり、二つの新しい事業を起した。

その一つは、母校の教育の発展のために、鹿児島大学が締結している「学術国際交流協定」と「部局間学術交流協定」をもとに、同窓会では、教育学部と次のように、国際交流活動の助成に関する申し合わせをした。

第一 鹿児島大学教育学部同窓会(以下「同窓会」といふ)に、鹿児島大学教育学部「以下(教育学部)」というが行う国際交流活動を支援する

ため、鹿児島大学教育学部同窓会国際交流基金(以下(交流基金))というを置く。「事業」

第二 同窓会は鹿児島大学が締結する国際交流協定大学のうち、教育学部が対応する必要がある大学との国際交流活動に対し、交流基金による財政面での支援を行う。「基金」

第三 交流基金は特別会計処理を行い、同窓会費の中から五十万円を上限として積み立て、毎年使用額を充当するものとする。「基金の交付申請」

第四 基金の支援を希望する者は、別紙様式を教育学部長へ提出し確認を受けた後、同窓会長に申請しなければならぬ。

第六 この申し合わせのほか、交流基金に関し必要な事項は、同窓会長と教育学部長が相談を行い決定するものとする。

その二としては、教育学部同窓会の特色を基に、「人材活用事業(講師派遣事業)」を行う。

「趣旨」 第一 教育学部同窓会は、教育・文化に関する豊かな知的人材を有する集団である。同窓会では、広く教育の振興を図るために、地域の教育文化のさらなる発展を目指して

活動を行う。 第二 「方策」 各地域の同窓生の方々が、動、公民館活動などへの支援

鹿児島大学教育学部同窓会会則 平成10年1月25日制定 平成17年8月28日一部改正 平成19年8月5日一部改正

教員免許更新講習について

鹿児島大学教育学部 教授 假屋園昭彦

教員免許をめぐる近年の動きとして教員免許更新講習の実施が挙げられる。筆者は現在、本学教員免許状更新講習推進室の委員を担当している。そこで、本制度についての本学の取り組みについて紹介してみよう。

二十年度に実施された予備講習における本学の特徴は以下のようなものであった。① 多種の学校種や教科に対応可能な多くの講習を実施した。開講講座数は約九十講座に上り、これは全国でも最大規模の講習であった。②次に課程認定六学部(教育、法文、理、工、農、水産)すべてが

参加した総合大学ならではの取り組みであった。③二つの離島域(種子島、奄美大島)で講習を実施した。これは離島域に勤務する教員の利便性を考えた上での実施であった。④水産学部水産練習船での洋上講習が実現された。これは水産教員だけでなく、小中高の教員も受講可能な講座であった。

そのための予備講習の中では最も人気のある講座の一つとなった。⑤鹿児島県教育委員会との緊密な連携を取っていることである。実施した予備講習は、受講者として参加した指導主事等による検証が行なわれる予定である。本年度の予備講習を受けて、二十一年度の本講習に向けての課題も見えてきたところである。次にこうした課題について触れてみたい。まず南西島嶼地域を含め、南北六百キロの鹿児島

島県の教員のニーズをどうとらえ、どう対応していくのかという点を考える必要がある。次に県内他大学および隣県の大学との連携のあり方についても今後、考える必要が出てくる。

さらに一般教諭だけでなく養護教諭、栄養教諭への対応についても現在、実現に向けて動いているところである。また、受講者からあがった声で最も多かったのは、受講申し込みがネット上のみで実施されたため、特に必修講座は受付開始時からアクセスが集中し、すぐに定員に達していて申し込みができなかったという意見であった。

これらの声に対応するため必修講座については、二十一年度から大幅に開講回数を増やす予定である。二十年度の実施を来年度以降の充実した講習に向けてつなげていきたい。

それそれぞれの地域の要請に応じ、て児童生徒の指導、PTA活動、公民館活動などへの支援

第三 「実施方法」 十二支部の世話役又は有志の方を中心に、それぞれの活動を考案する。なお、活動に要する経費(講師謝礼・会場費等)は同窓会から出費する。これらの事業は、同窓会活動の活性化と同窓生の親睦を深めるためのものである。会員の皆さんの絶大なご支援とご協力をお願いします。

鹿児島師範・鹿大教育学部 同窓会について この同窓会についての問い合わせがよくありますので、確かなことをご案内いたします。この同窓会は、旧男子鹿児島師範学校同窓会と教育学部定年退職者で組織されて、年一回懇親会を行っています。毎年、定年退職を迎えられた卒業生の皆さんに誤解を与えているようです。教育学部独自の同窓会は、鹿大の七つの学部と連合して鹿児島大学同窓会連合会を数年前結成して、母校の支援をしています。

編集後記 ○秋天高く風さわやかな季節。会報第十号を発行。今年同窓会設立十周年、ここをさらに発展の足掛かりとしたい。○同窓会は、ことに在学生の支援に心掛けています。今年も「鹿児島島の教育を語る会」を実施。十一月二十八日(金)十六時、教育学部でフォーラム形式で実施します。○新しい教員養成の開発・実施を目的とする教育学部と県教委が連携して人事交流を始めて二年目、教育実践総合センターの下野浩二教授に玉稿を寄せてもらいました。○各学年、教科ごとの同窓会の状況をお知らせください。(池)